

組織的躍進の下

活気を帯びた定期総会に

大阪平和委員会は、6月23日大阪市内で第62回定期総会を71人の出席で開催。この1年間防衛省助成制度を利用した大阪市大による軍事研究は許さないと革新懇、科学者会議とともに尽力できたこと、5月3日2万人参加の「おおさか総がかり集会」で青年学生部の山本のりこさんが午前中に実施した「若者百人憲法アンケート」の結果について壇上で発表する凛とした姿勢が好評を呼んだことなどで、会員・紙誌読者数の三指標を21世紀最高で迎えただけに、活気に満ちた総会となりました。

最初に、西晃弁護士による恒例の憲法講演。西弁護士は、「来年天皇の代替わりが入ったとはいえ、安倍首相は19年憲法9条改憲をあきらめてはいない。」「安倍9条改憲NO!憲法を生かす3000万署名」を集めきれなければならぬ」と強調しました。そして、「モリトモ」問題で大活躍中の辰巳孝太郎日本共産党参議院議員の連帯挨拶の後、上羽事務局長が活動総括と方針案、吉田事務局次長が収支決算と予算案を提案しました。続く討論には17人が参加。

大阪原水協理事長は、核兵器禁止条約批准に向け「ヒバクシヤ国際署名」を広げるため「同署名推進・大阪の会」を結成して取り組みを強化している、大

阪安保事務局長は、11月18日の沖縄県知事選に勝利すれば辺野古新基地建設工事は止められる、寺戸月美副会長(下の写真)は「都構想」を許せば大阪市の財源が7割府に吸い上げられ市民サービズ低下が必至であるとそれぞれ発言しました。

基礎組織では、西淀川の今村さん・中村さんの村々コンビが、漫才「憲法を守ろう」を披露、吹田は平和委員会からの要望を受け市が「非核平和都市宣言35周年事業」を実施し8月6日に「平和大使」(中学生12人)を広島に派遣すること、八尾は3月「平和バスツアー」で満蒙開拓記念館など訪問し、9月高槻がこれにならって同じツアーを実施予定であること、旭区は年度初めに都島へ10人の会員を転籍させたが、「役員みんな増やす」運動を展開し、242人の会員でこの総会を迎えたこと、都島は毎月のように映画会など企画を実施し会員・読者を増やして来た経験、そして高槻は、大阪北部地震の被害の状況と新婦人と取り組む「平和バスツアー」について、堺は昨年の市長選で勝った結果「平和のための戦争展」を再選された市長が後援してくれるようになったこと、歯科保険医協会所属の女性会員は、原発事故被害者1・2万人の一人として国を相手取って訴



訟中だがこの総会の討論を聞いて元気が出たこと、東大阪は「安倍改憲NO!」と「ヒバクシヤ国際」両署名に賛同するよう市長に要請したが市長が耳を貸さないことについて、それぞれ発言しました。討論の後、2018年運動方針・予算案、二人の理事を補充する役員人事、そして「決議」が一括して承認されました。総会では、大阪北部地震の被災者に向け義捐金が呼びかけられました。

金が寄せられました。昨年、突然禁止条約の議論が始まり、採択されたように感じている方も少なくないと思いません。しかし、禁止条約の前文には、ヒバクシヤと市民社会の長年の努力によって核兵器の非人道性と廃絶の必要性が世界中に伝播し、この条約の合意に至った旨が明記されています。今回、府内通し行進に参加して、核兵器のない世界を求めて踏み出す一歩、「今こそ核兵器をなくそう」とあがる声、沿道で集める国際署名の一筆、それら一つひとつの意思表示が60年間積み重ねとなり、「人類史上の転換点」とも呼ばれる今の情勢があるのだということがわかりました。

禁止条約採択からちょうど一年、条約批准国数はコストリカが批准したことで11カ国となり、発効要件の50カ国に少くも近づいています。一方で、核保有国などは発効の阻止に向けて更に圧力を強めているとも言われているいま、条約発効と2020年NPT再検討会議に向け、「ヒバクシヤ国際署名」を通して「核兵器のない世界」を求める市民

雨にも負けず府内通し行進

【青年学生部 山本 樹】

今年で60回目を迎える原水爆禁止国民平和行進(以下平和行進)は、昨年7月7日に国連で採択された「核兵器禁止条約」の発効を求めて昨年以上に盛り上がったものとなりました。6月30日〜7月7日にかけての大阪通し行進では、何度もの大雨のなか沿道で呼び掛けた「ヒバクシヤ国際署名」は245筆も集まり、被爆者援護と平和行進の成功のために30万円近くの募

の意思を国際社会に突き付ける必要性が高まっています。平和と民主主義を求める市民の声が世界を大きく動かす時代、私もその一人として「核兵器のない平和で公正な世界」の実現に向けてより多くの人と一緒にこれからも声をあげていきたいと思えます。

《8月の行事予定》

- 1日(水) ピースインおおさか「海外代表と語るつどい」 13:00 たかつガーデン・コスモス
- 4日(土) 原水爆禁止世界大会・広島(～6日) 開会総会 14:00～16:30 広島県立総合体育館・グリーンアリーナ
- 5日(日) // 分科会/動く分科会 9:30～15:00
- 9日(木) 原水爆禁止世界大会・長崎 10:30 長崎市民会館体育館
- 11日(土) 沖縄県民大会 11:00 奥武山公園
- 25日(土) 日本平和委員会常任理事会 13:00(～26日)

各地の「戦争展」のご案内

- ◇天王寺 7/28(土) 10:30 市社会福祉センター
- ◇堺市 7/28・29(土・日) サンスクエア一堺
- ◇吹田 8/10・11(金・土) メイシアター
- ◇八尾 8/5(日) プリズムホール

大阪平和委員会

全国大会に大きく貢献

7月8日(土)、9日(日)

岐阜市内で日本平和委員会第68回全国大会が全国31都道府県から210人を超える参加者で開催されました。

大阪から近藤理事長をはじめ17人(青年2含む)が参加。

基礎組織からは旭区、西淀川、生野、天王寺、住之江、北区、高槻、吹田、堺の9各地域と関共、歯科保険医協会の2職場が参加。

1日目の全体会討論では、大阪からは岩本青年協議会議長を含め4人が発言(漫才を含む)しました。片方副会長は、全国女性委員会責任者として全国の女性会員の拡大と各県役員の中なかでの女性幹部比率増を訴えるとともに、大阪では毎年女性委員会企画を実施し成功させていると報告しました。中村西淀川事務局長と永松吹田事務局長のふたりは、漫才「憲法を守るう」のさわりを披露し会場の爆笑と拍手に包まれました。

2日目の閉会集会では、仲間づくり表彰がおこなわれ、大阪はこの1年間全国の仲間づくりを牽引しただけに、数々の表彰の対象となりました(下に列挙)。また、機関紙コンクールでも地域部門で八尾が最優秀賞に選ばれました。

以下は二人の参加感想文です。

《生野区 室谷雄二》

「優位な情勢をどう生かすのが問われている」

この全国大会で、注目した二つの発言がありました。一つは、内藤功・代表理事が、朝鮮半島の対話と交渉による劇的な転換点にふれ、「北朝鮮の脅威を最大の口実とする『戦争する国づくり』の根拠が失われた。安保、自衛隊の存立が根本から問われている」との冒頭挨拶をしたことです。二つ目は、全体討論での各地域からの平和委員会活動に対し、石川康宏代表理事(神戸女学院大学教授)が「討論が『オタクっぽい』のではないか。今までなかった条件、局面で、たくさんの人たちの信頼を得られる運動をどう進めるのか求められる」という問題提起をしたことです。私は、この問題提起をどう受け止め、どう考え、情勢を生かす平和運動を進めていくのが、いま、改めて問われていると感じました。

《旭区 松本千賀子》

「全国の経験が学べた」

連続の暴風雨の西日本、JR・近鉄・南海等は止まり、7日の開会に新幹線「こだま」と名鉄で乗り継ぎ、やっと着きました。吉田事務局次長の気苦労をお察しします。定期全国大会は初参加です。全国各地で頑張る皆様の経験を学ぶことができ

《全国大会仲間づくり&機関紙コンクール結果》

- 都道府県
 - ◇会員実増全国ベスト2(101人)
 - ◇新聞実増全国ベスト2(66部)
 - ◇新聞増加率全国ベスト5(105.6%)
- 都道府県ホームページ部門 最優秀賞
- 基礎組織
 - ◇新たに10人以上会員を迎えた
旭区、吹田、西淀川、都島、府高教、青学部
 - ◇新たに10人以上紙誌読者を迎えた
高槻・島本、吹田、旭区、西淀川、都島
 - ◇新たに5人以上会員を迎えた
高槻・島本、北区、大教組、関西共同
 - ◇新たに5人以上紙誌読者を迎えた
天王寺、歯科保険医協会、青年学生部、関共
- 個人
 - ◇新たに10人以上会員拡大
上羽28人(ベスト5)、上野24人(ベスト6)
永松23人(ベスト7)、近藤19人(ベスト10)
 - ◇新たに10部以上紙誌読者拡大
永松17部(ベスト8)
中村、鈴木、上羽3人とも14部(ベスト10)

大阪は数々の表彰の対象に!



都島から総会報告

「都島平和の会」第2回総会が7月8日24人の参加で開催されました。上野会長挨拶に続き、3人の来賓紹介、来賓を代表して鳥居さとしさんが挨拶を行いました。続いて、大阪平和委員会理事長の近藤正さんから「憲法9条を掲げ非核と平和友好の北東アジアを」

今月の言葉「キャンドル市民の力」

金正恩委員長が核廃棄を交渉のテーブルに載せて南と米国の交渉に積極的に出たのには、キャンドル革命を経験した韓国が守旧的な行動形態には戻りえないという信頼があったからであり、韓国政府が積極的に出るようになったのもキャンドル市民の力が作用した...

岩波「世界」7月号「ポスト分断時代の暮らしを準備しよう」(李南周聖公会大学教授)

アを」と題してお話をいただきました。この後、総会に移り、2017年度の活動報告、決算報告、会計監査報告、18年度の活動方針、規約改正、予算、役員の見直し案が行われ、各々について質疑に入り、7人の会員から発言がありました。その中では、規約、再び戦争をさせないため戦時中の体験、平和大行進、3000万署名、沖縄問題、会員拡大などについて述べられ、平和の会の役割がますます大きくなっており、そのためにも会員拡大(当面100人)現在60人超)と、特に青年会員を増やすことなどについて意思統一しました。議案は皆さんの賛同を得て、承認され、18年度のスタートを切ることとなりました。